

事例 : No. 1

作業日報で毎日の数値化による業務効率化とスタッフ満足度向上

1. 林業事業体等名 アイシンフォレスト株式会社 (岩手県北上市)
2. 林業事業体の概要
 - ①年間素材生産量 4,800m³ (うち 間伐の占める割合 45%)
 - ②生産する主な樹種 針葉樹、広葉樹
 - ③素材生産に関わる作業員数 7名 (1セット2-4名×2セット)

3. 取組の特長

- スマートフォンから入力可能な日報管理システムを導入し、現場ごとの経費や売上、進捗などを可視化、社内で共有することにより、きめ細やかな進捗確認と各人の作業効率の向上を図ることができた。
- 本システムは、クラウド型の表計算アプリとアンケート作成アプリを連携し、各作業員がスマートフォンからアプリで報告した内容を集計し、事務所のPCで表計算ソフトを用いてコスト分析や進捗管理を行う流れとなっている。
- 入力項目は作業工程、使用機械、作業時間、燃料消費量など。入力しやすいように、選択式（フォーム型）にしている。
- 従来は、現場から会社に戻り、燃料費等の現場の経費、人件費、日数等を報告していたが、その数も膨大であった上、複数の現場を同時並行で作業していることもあり、現場ごと、職員ごとの経費と売上について集計・分析することに大変な労力を要し、すべてのデータを集計しきれていなかった。
- システム導入後は、現場作業員がそれぞれのスマートフォンから直接入力ができ、集計までがほとんど自動化されることにより、集計時間が大幅に短縮されたほか、各現場のデータ（燃料費や人件費、売上など）をリアルタイムに把握し、社員間で工程の作業状況や進捗を「見える化」させることが可能になった。
- リアルタイムに把握したデータは、生産のボトルネックやトラブル（機械不良など）の把握につながるほか、職員全員に日報を共有し、作業内容についてデータを交えて班単位で検討することで各々が日々の課題や改善すべきポイントをより具体的に把握することができるようになった。
- 現場単位や会社全体の売上に対しての各職員の貢献度が可視化されるため、職員の達成感や責任感につながっているほか、会社だけが儲かっているのではなく、頑張った分だけ給与として還元していることも示すことができ、会社と職員の信頼関係の構築にも貢献している。



図1 現場での活用風景

図2 日報入力画面（スマートフォン）

4. 具体的な内容

現場指示の効率化や通勤時間の短縮、作業員のコスト意識向上等により、労働生産性が約30%向上、素材生産コストが約16%削減、スタッフの定着率が20%向上した。効率よく働いて休日取得の促進にもつながっている。

利用間伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 ($\text{m}^3 / \text{人} \cdot \text{日}$)	素材生産コスト ($\text{円} / \text{m}^3$)	労働生産性 ($\text{m}^3 / \text{人} \cdot \text{日}$)	素材生産コスト ($\text{円} / \text{m}^3$)
	4.2	5,300	5.0	4,628

5. 今後の取組等

コストや売上の見える化により、職員一人一人がコスト意識を持ち、問題意識を共有することで、日々の課題や改善すべきポイントを把握し、職員の成長にもつながっている。今後も、日報データの情報共有により、会社と職員が一体となって、成長するよう、人材育成にも努めている。

今後は売上等の分析精度を高め、車両管理、各種保険管理、帳簿・決算書作成にも応用できるよう、システム連携を図っていく。

【問い合わせ先】

所属：岩手県森林整備課

役職・氏名：主任 山田 雄志

連絡先：019-629-5785